

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0670700624		
法人名	株式会社コンパス		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	山形県鶴岡市茅葎西茅葎112-6		
自己評価作成日	平成 23 年 1 月 10 日	開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切に考え「里帰り支援」として、ご家族の協力のもと、自宅に帰ったり外食やドライブに行ったりする機会を年1回以上持てるよう支援している。又、利用者の身体状況に合わせたリハビリ体操を初め、毎日体を動かす時間を設け身体機能維持に努めている。「～したい」等の意向については可能な限り叶える様支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do">http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 2月 15日	評価結果決定日	平成 24年 3月 7日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

23年度のユニット年間計画として「里帰り支援」「個別ケア」「喫茶コスモス」「美顔ボランティア、地域交流」を立て、達成に向け職員全員で話し合い、具体的な取り組みを工夫しながら1つ1つ積み上げ、自己研鑽に励んでいます。家族等との信頼関係を大切にしなが地域との様々な交流を持つ事で支援の輪が広がり、利用者の笑顔に繋げ「その人らしく夢を持って暮らせるよう」懸命に支援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内・事務所に理念を掲げ常に意識しながら行動できるようにしている。判断に迷った時は理念に立ち返るようにしている。	実践に繋げる為に、サブテーマとして「日頃の声かけ」を目標に掲げ、全職員で意識向上、共有を図り、毎月のフロア会議で確認している。利用者の思いを心にとめながら関わりに配慮している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流行事を年6回開催し地域の方がたの参加を頂き交流している。町内会の加入やコスモスの活動を知っていただくため「コスモスだより」を町内に配布している。地域の文化祭に利用者の作品を出展し見学に出かけ地域の方と交流を行っている。	昨年目標達成を踏まえ、地域へ「コスモスだより」の配布や協同行う花植え、手芸、運動会、茶話会、いも煮会等の交流・行事を通して、利用者の生き生きした姿が見られている。幼稚園児、中学生の来訪で笑顔があり、地域との繋がりを深め積極的に支えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習の受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、利用者の状況・行事・研修会参加状況等を報告し意見を頂戴したり、運営に関する問題点の解決に繋げている。会議結果は書面にて全職員に回覧しサービス向上に活かしている。	定期的な会議は、利用者と同じ昼食を年に1回食べてもらう等に配慮し開催している。活動状況報告の他、アンケート調査や防災関係等、身近な話題を話し合い、意見要望等も出され、地域からの情報を得る大切な場と捉え、質向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所長寿介護課の職員の参加を頂き助言を受けたり生活保護受給者の事で担当者に相談を行っている。又介護相談員の定期的な訪問を受け客観的な視点での意見を頂いている。	市担当者には、制度の不明点やホームでの対処方法等の相談など、アドバイスを受けながら協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての学習会やマニュアルの作成を行い全職員で身体拘束による弊害を理解し、身体拘束排除について職員間の意志統一を行ない、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠については時間を決め解放している。	年度初めに内部研修でマニュアルを基に、言葉の拘束も含め身体拘束を行わないケアについて学習会をし、共有認識を図っている。外出傾向の利用者は、さり気ない声かけや見守りを重視し安全を確保しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の学習会を毎年行い、日々の援助の中で気になる言動についてはカンファレンス等で取り上げ防止に努めている。又虐待を見た時の通報義務についても話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習し制度の理解に努めている。必要と思える利用者については包括支援センター等と相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談や入居契約の際、施設の理念や利用料金、重度化時の対応や契約解除について十分な説明を行い不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族代表参加の運営会議での意見や家族参加の行事の際など意見の聞き取りを行っている。意見箱や電話での意見・苦情の受付を行っている。出てきた意見・苦情については担当職員を中心に全体会議を持ち運営に反映している。	家族等には、毎月のお便りや運営推進会議時に暮らしぶりの報告を行っている。意向調査を実施し来訪時等にも気軽に話せる雰囲気作りに努め、意見要望は前向きに受け止めサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議で意見を出し合い検討している。リーダー会議等で出てきた意見も全体会議で検討し決定している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に頻繁に行き職員の努力等を把握する様に努めている。向上心が持てるように資格取得への支援を行っている。又、年に2回(3月・9月)面談を行い働きがいのある職場環境づくりに努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度、初めに職員一人ひとりにあった研修計画(内部・外部)を立案している。研修報告は、報告書を回覧し全体会議でも発表してもらっている。新人職員へは、採用時研修を行っている。	今年度外部の交換研修には、交替で二日間ずつ全員が参加し、内部では、ユニット毎の交換実習を行っている。個人目標を掲げ、6月、12月に自己評価を行い、切磋琢磨しながら更なるレベルアップを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会や地区ブロックでの研修会等に参加し交流を図っている。事業所独自の交流として他グループホームの協力を頂き2日間の実務研修参加を実施し日頃の支援の見直しをしている。	山形県グループホーム連絡協議会の交換研修やスクラムチャレンジの学習会に参加している。他事業所との交流で、利用者への声かけや場面作り(食事の手伝い等)の良い点を活かしサービス向上に繋げている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居時の人生の歩み等を考慮しながら支援あたる。傾聴の機会を多く持ち関係作りに努めている。希望により入居前の施設見学も行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、事前面談などでこれまでの経緯や困っている事などをゆっくり聞いている。入居時担当職員を紹介し関係作りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の置かれている実情や思いを把握し、介護保険利用外のサービスや各種サービスの案内を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る軽作業等を職員と一緒にに行ったり昔の習慣を聞いたり調理の味付け等について聞いたりしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆が保てるよう無理のない程度に一緒に外出の機会を持ってもらうよう提案し実行している。家族参加の行事を企画し参加を呼び掛けている。状況報告を月1回家族宛てに送付し利用者の状況共有を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院を利用したり、家族の協力を得ながら昔行った食堂での食事をしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しホール席の決定や利用者同士の会話が弾むよう会話に職員が参加している。外出や行事時等、グループ分けに配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の見舞いや今後についてのサービス紹介や困った時は電話頂くよう話している。身体状況等によっては再度申し込み可能な事を伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の意向の確認や、年2回の意向調査に基づき出来る限り意向に沿った生活ができるよう心がけている。	細やかな意向調査を基に「利用者の視点に立ち」担当者が利用者の個別目標を立て、思いを表せない方には、関わりの中で表情や仕草から汲み取り、希望が叶えられるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談や「人生の歩み」などで把握し入居者との会話や家族の来訪時等に価値観や習慣等の情報収集を行っている。必要に応じ介護支援専門員からの情報提供や認定調査資料等を参考にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や支援表を活用し全体像をつかんでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングやモニタリング、担当職員によるサービス内容の評価をもとにケース会議で検討し介護サービスの見直しを行っている。	利用者・家族等からの情報を基に、できる事をプランに取り入れ、「自発性」を考慮し作成している。毎月モニタリングを行い、日々のミーティングや支援表からケース会議で気づきを共有しながらプランに反映させた介護計画になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や支援表を毎日記録し、毎日のミーティング結果等を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや防災訓練での地域の方がたの参加や施設で対応できない意向の実現等について、利用者・家族と相談し介護保険サービス以外のサービスの利用支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の定期的、往診や受診し外出を兼ねての通院を職員が対応している。家族の協力で他の医院、病院等に通院している方もいる。	かかりつけ医受診は職員(看護師)がバイタルグラフを持参して同行し、状況変化時等は家族に電話連絡している。2ヶ月に一度協力医の往診を受ける方もおり、バイタルグラフを毎月1回送信し安心に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態をミーティング等で話し合い看護師の指示のもと、日常の健康管理や感染症対策等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に、見舞い、状態把握の為に病院関係者、又、家族との連絡を看護師が行い、状況に応じた対応や、取り組み等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の利用にあたっての条件を満たさなくなった時に備え、他施設の入所申請を行っている。又、生活面から継続が困難な場合については、協力医に助言、指導して頂くようにしている。	利用開始時に、事業所で出来る事、出来ない事を明示している。グループホームで生活出来なくなった時は、退所と捉え家族や医師と話し合いをしながら方針の統一を図り支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て年1回、心肺蘇生、救急法を受講し応急手当等を行えるように対応している。緊急メモ対応マニュアルを作成し周知している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回、定期的に自主訓練も行っている。日勤帯想定・夜勤帯想定避難訓練を実施。避難訓練では、火災の他に地震想定訓練も行っている。訓練時には、地域の方々にも参加協力を頂いている。	東日本大震災後、災害対策をチェックし直し、重ねて装備している。日中玄関にヘルメット・防災リュックを準備し、夜勤時は手元に置き、リュックの中のネームリングに薬を貼り付けて置くなど工夫している。訓練時は地域住民も参加し、利用者の避難の様子を見守っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて学習会を開催しプライバシーを損なう事がないよう支援している。又月1回のフロア会議の中で言葉かけの月目標を決め守れたかどうかの評価を行っている。	プライバシー保護マニュアルに沿って学習会を実施している。広報紙掲載の写真も個人情報の許可を得ている。言葉かけに気を付けフロア会議の時に自己評価しながら尊厳のある支援が出来るかを確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	意向調査での希望の聞き取りや日々の支援について意向確認しながら行っている。又筆談やジェスチャーを交えての会話も行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、個性、習慣等を考慮し出来る限り個別性を持った生活ができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えの洋服は本人の希望で決めているが必要に応じ見守りや支援を行っている。行事や外出時などいつもと違った装いが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来ることを見極め、調理の下ごしらえや盛り付け、後片づけなど職員と一緒にしている。おやつ作りも時々一緒に行い楽しんでいる。	利用者の希望を大切に栄養士の確認を得た献立作りをしている。食材は配達その他スーパーに利用者とは出かけ準備している。行事食や、外出支援の際にファミリーレストラン、回転寿司なども利用している。デザートやおやつは、職員のお手製も飛び出し利用者を喜ばせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を支援表に記入し対応している。水分摂取量が不足な利用者に対しては好み等を考慮して提供し適量となるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや見守り・介助を行い口腔内の清潔に努めている。又異常時においては協力医の歯科往診で歯磨き指導や治療を受けている。希望歯科の受診支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄アセスメントを行い個々の対応を行っている。排泄誘導は最小限に行うようにし自発性を損なわないよう支援している。又誘導時や失敗時はプライバシーを配慮し対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら自分でトイレ排泄出来るよう見守っている。パターンチェックしながら声かけの度合いを見極め、オムツ使用の方には交換の時必ず清拭し、気持ち良い暮らしを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1,000～1,500の水分摂取を目安に野菜を多め、毎朝ヨーグルトを提供し、ホール内の運動の声かけをして便秘予防対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や希望に合わせて入浴して頂いている。毎日入浴希望の対応や入浴嫌いの方には無理強いせず足浴等から行い徐々に入浴ができるように支援している。	計画に捉われずに、希望で対応している。昔の思い出話、苦労話を語りながらゆっくり楽しんでいる。好まない方には、無理せず足湯や体を拭く事からはじめ、入浴剤などを使い入浴に対して前向きな気持ちになるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の昼寝等、利用者の習慣や体調を考慮し支援している。夜間眠れない時は暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や看護師の指導のもと使用している薬について理解し確実な予薬の支援をしている。状態観察を常に行い状態変化に注意している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に合わせた役割(食器拭き、テーブル拭き、洗濯干し・たたみ等)を決め職員と一緒にいき感謝の言葉を伝えている。地域の文化祭に出品する作品作りや、生け花や習字等、趣味が継続できるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等を考慮しながら、本人の希望や気分等に応じ散歩やドライブ、日光浴をしています。個別支援として担当職員と一緒に意向に沿った外出や食事・買い物等が出来るよう支援している。	ユニット毎に遠足や、ホテルでの芝居見物なども取り入れ、外での楽しさを味わっている。墓参りの帰りに外食したり個別支援も行き、また近くの駐車場まで行き車のナンバー読みをして遊ぶなど、多彩な取り組みが行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと少額のお金を所持している方もいるが多くの方は小遣いを金庫に保管させて頂き、買い物希望時や行事で外出時等、少額であるが使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出したり希望に応じて電話出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には観葉植物が植えられ高窓からはやさしい光が差し込みゆったりとした居心地のよい空間となっている。レク活動や行事の写真をはったり季節感のある飾りを行っている。生け花が1年中欠かさず生けられている。	ホール内の中庭が事業所の自慢の一つでもあり、植物を植え天窓からの光で成長する姿を見守っている。里帰り支援の写真が提示されて楽しかった事を忘れないようにとの心遣いも見られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内はソファが各箇所にて設けられており自由に座って過ごされている。一人で過ごしたい方は自室でテレビを見たり新聞、音楽等を楽しんでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、自宅で使用していた使い慣れたタンスや馴染みの生活用品を持ってきて頂き安心して過ごして頂けるようご配慮している。状況にあわせ畳やカーペットを敷いている。	自宅での暮らしの延長と捉え、テレビ、タンス、位牌などが持ち込まれている。居室の名札は、裏に確認済の文字があり、災害時の確認の合図札になっている。担当職員の手を借りながら安心した暮らしを保っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室に手すりを取り付け、なるべく自分一人で安全に移動できるようになっている。トイレ、浴室など場所が分かるよう掲示し迷わないようにしている。			